

総務観光建設委員会

地域振興基金条例の制定

■基金設置の理由は何か。また、積み立て予定の20億7590万円の基金利子や返済及び取り崩しについては。

この基金は地域振興の推進を図るのが目的。財源は合併特例債を借り入れ、元利償還金の内70%が普通交付税に算入。よって積立額の3分の1の市負担で基金が作られる。返済(年1億2400万円)は平成31年度より始まる。平成32年度より償還済額の取り崩しが可能。

平成30年度一般会計補正予算

■FMいずのくにに今回80株(400万円)の増資とした理由は。

事業の採算が合わなくなったため、解散という方法もあるが、災害時の対応や地域の活性化への貢献を考えると必要であるということ、出資という方法をとった。

■旧大仁市民会館と旧大仁武道館の解体工事費(約1億7700万円)は警察署の移転先ということでの補正予算計上か。

警察署の移転の件は協議中である。

両方の建物は耐震性がない上に隣接している図書館への通路となっており、不特定多数の人が来て危険であるので解体することとなった。



旧大仁市民会館
(左奥は中央図書館)

■道路橋梁長寿命化対策事業では交付金を受けられなくなったが、来年度以降はどうなるのか。

交付金事業には色々な補助事業制度があり、来年度も財政的には厳しいので、補助事業の入れ替えを視野に入れて県と調整を図りながら進めたい。

■観光課の時間外勤務手当が80万円と、職員の人件費がかなりの金額となっているが、その内容は。

静岡DCに加えてふるさと博覧会が同時並行したことや、道の駅リニューアルオープンへの対応。世界ジオパーク認定の普及啓発事業が新たに立ち上がったため。

閉会中の事務調査
平成30年10月16日～18日

■公共施設等総合管理計画及び公共施設再配置アクションプラン【山梨県南アルプス市】

平成15年4月、6町村が合併、財政状況が厳しくなる中で、公共施設の適正配置に向けて計画を策定し、平成28年度から30年の間に保有量を約20%、5万5千平方メートルを削減するアクションプランを策定した。基本方針は、①機能集約と複合化を進める、②不要な施設を処分する、③地域拠点施設を整備する、である。再配置を実施した場合、年平均1.6億円、延べ床面積1.2万平方メートルの削減が見込まれ、効果は非常に大きい。



南アルプス市の庁舎内にて

撤退等があり、市街地の空洞化が進んだ。さらに、厚生総合病院が市から消えるという危機感が生じ、市庁舎も老朽化と耐震不足が深刻な状況になった。この状況を打開するため、平成21

年に「まち再生計画案」を策定し、市役所と厚生病院の交換移転や病院の再構築に伴う費用として30億円を支援することを核として市街地の復活を計画した。市庁舎の交換移転について市民説明会を開いたが、賛否両論あり、市民アンケートを実施、病院を残すことについては90%が賛成であった。立地適正化計画とともに新地域公共交通システム(デマンド交通)も導入した。

■観光振興ビジョン【長野県安曇野市】

平成29年度の観光客数は508万人、観光消費額は122億円であったが、利用者の8割は市を通過するだけの観光客であった。大王わさび農場や国営アルプスあづみの公園などがあるが、範囲が広いいため、市有バスを年間120日ほど巡回させ、シェアサイクリングの実証運用も始めた。基本的な戦略は「安曇野暮らしツーリズム」で示されているが、「水」「農」「歴史・文化・芸術」のテーマで、安曇野の暮らしを体験してもらう取り組みを進めている。

福祉文教経済委員会

平成30年度一般会計補正予算

■ 葦山リサイクルプラザ金属類処理業務委託料657万円の理由は、

これまで業者に、その他金属類（ラジカセ・電子レンジ、掃除機等）を有価で引き取ってもらっていたが、金属の買い取り価格が安くなり、さらにプラスチック等の異物の除去作業に費用がかかるため、今年からは0円もしくは逆有償となった。

■ 生活保護運営事業の医療扶助8800万円について金額が増えた理由は、

1人当りの平均が、昨年度は月9万円だったが、今年度は11万円となり2割ほど上がった。一部の方の医療費として、高額な手術や薬の処方によるもの。また、全体的に高齢者の傷病が増えているため。

■ 中央図書館の灯油燃料費84万8千円の説明を。

中央図書館は灯油による冷暖房を行っている。平成30年は酷暑だったこと、2階に文化財課の施設が入ったことにより、全館フル稼働したため。また、灯油代が59円/リットルが87円/リットルと高

騰しているため、この冬の暖房費を考慮して不足の予算を計上した。

■ 葦山反射炉ガイダンス施設景観照明設備工事（226万8千円）の目的と効果、及び工事内容は、

従来から桜の時期にはライトアップをしていたが、夜間は閉館していなかった。4月からの夜間反射炉施設開放に向けて、ライトアップ設備及び史跡内の安全確保のための誘導灯設置工事である。

来場者の落ち込みもあり、今回は宿泊客などの夕食後のイベント提供、旅行会社へのPRをして来場者アップを図るため。



葦山反射炉ライトアップ

閉会中の事務調査

平成30年10月9日、10日

■ 健康幸せづくりプロジェクト事業について【長野県上田市】

上田市の抱える健康課題として、糖尿病、血糖値の高い人、メタボリックなどの予備軍が多い。そして、特定健診の受診率が37・8%と低く県内19市中16位であった。高齢化比率も高く、今後の医療費抑制のため重症化予防に力を入れるプロジェクトを設置。

主な内容は、①市内7会場にて、6月から10月の毎土曜日、午前6時半から7時までラジオ体操を行っている。②若年層（30歳代）を対象の健康診査と保健指導による早期の生活習慣病対策③20歳の無料歯科検診など。



健康づくりプロジェクト事業視察

官民で専門指導者も一緒に企画運営をすることで、ラジオ体操など継続できる。成人式に無料歯科検診チケットは良いアイデア。若年層を対象とした

健康診査導入による早期生活習慣病対策は当市に提案できる。

■ 子育ての駅【新潟県長岡市】

防災センター内に開設した子育てセンターはNPO法人に委託運営している。利用者は平成29年度5万7587人（1日平均186人）。男性の利用者も多い。まちなか絵本館では約1万3000冊の絵本や育児書があり、保育士や司書も常駐。高校や大学等と連携をもち、次代の親となる若者に子どもとふれあう機会も提供している。

市民防災センターと連携した子育ての駅は災害時にも電源が確保できることとの形態がいかされている。母子保健や保育園、子育て支援を教育委員会に統合しての体制の効果が出ていることは当市としても参考になる。



子育ての駅視察